第38号
2018/07

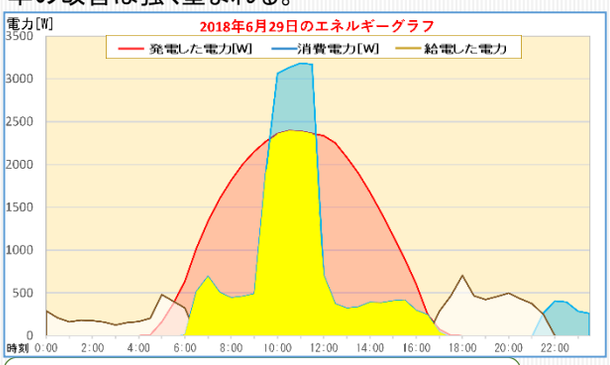
PVかながわ ニュースレター

News

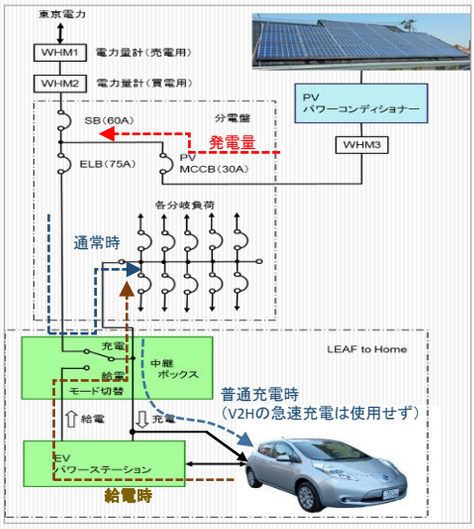
リーフ＋V2H（Vehicle to Home）を蓄電池として使ってみた

FIT買取期間満了後の対処方法に関しては本誌第34号で取り上げ、先のフォーラム神奈川2018にて、太陽光発電の余剰電力の自家消費拡大には、蓄電池を活用する方法が有効であることはわかったが、大容量の蓄電池は導入コストが高い。我が家ではHEMS搭載済みで、電気自動車(EV)があり、EVと家の設備間で双方向に送電が可能なV2HもあるのでEVを家庭用蓄電池として動作させた場合の問題点について掲載する。

下のグラフは6月29日（快晴）のエネルギー推移だ。この日の効率（（給電量＋EV使用量）÷EV充電量）は69.4%であまり良いとは言えない。蓄電池から給電する際の入力電力からの効率は、大きな課題であり、特にEVパワーステーションの変換効率の改善は強く望まれる。



我が家の設備構成図に電気の流れを点線で示す。給電時は茶色の点線で電気が流れ、グラフの茶色線の白色部が蓄電池からの消費だ。ピンクのエリアが売電分で、黄色部分が自家消費電力量だ。問題なのは、充電と発電量が連携していないため、グラフの青い部分、即ち買電が発生する。発電量の自家消費率は47.2%で、昼間にEVの充電をしない時の平均29.3%よりは増えるが、青色を分散できれば66.2%も自家消費できる。既存の市販設備は太陽光との連携が不十分で、使い勝手の改良が必要と思う。（田辺記）



世話人から

今後の予定

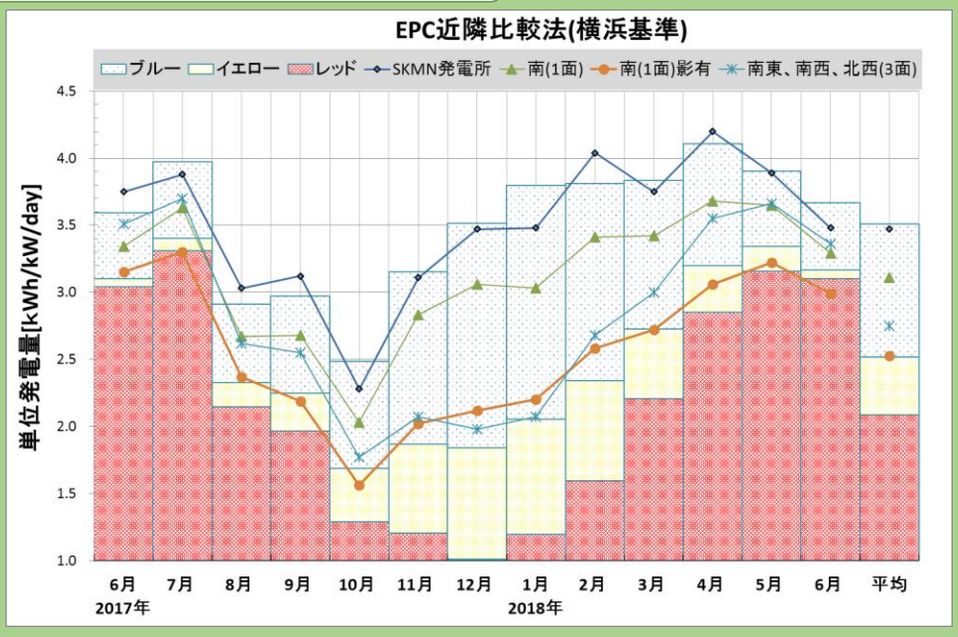
2018年7月21日(土)
「ひらつか環境フェア2018」
会場：市役所1F
　　および玄関前広場
時間：10:00～16:00

2018年8月2日（木）
「図書館夏休み教室
ソーラーバッタを作ろう！」
会場：横浜市泉図書館
時間：10:00～11:30

2018年8月8日（水）
「図書館夏休み教室
ソーラーバッタを作ろう！」
会場：横浜市中図書館
時間：10:00～11:30

2018年8月12日（日）
青少年のための**「科学の祭典」**
会場：県立青少年センター
時間:10:00～15:30

今月の単位発電量！



6月29日に関東甲信地方が梅雨明けしたとみられると発表がありました。平年より22日早く、昨年より7日早く、6月の関東甲信地方の梅雨明け宣言は初めてのことです。気象庁によると6月の天候は、「日本の南東海上で太平洋高気圧の勢力が強く、上旬には日本の東海上で移動性高気圧の勢力が強まりやすかった時期もあり、月平均気温は全国的に高かった。北海道地方では、低気圧や前線の影響で、月降水量はかなり多かった。東日本太平洋側では、梅雨前線や湿った空気の影響を受けにくかったため、月間日照時間はかなり多く、東・西日本の日本海側でも多かった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドが続く場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。